

発表テーマ：大学コバルト 60 γ 線照射室の施設運営における現状

発表者氏名：今井重文 技術分野 ：環境安全 発表形式 ：口頭発表

所 属 ：環境安全技術支援室 放射線管理技術グループ

共同発表者氏名：

橋本明宏（環境安全技術支援室 放射線管理技術グループ）

下山哲矢（環境安全技術支援室 放射線管理技術グループ）

近藤茂実（環境安全技術支援室 放射線管理技術グループ）

概要

国立大学におけるコバルト 60 γ 線照射室は、2000 年頃までは全国の旧帝大等に存在していた施設であり、各大学における工学・理学・農学・医学研究を支える重要な研究基盤として整備されていた。しかし、国立大学法人化以降、施設の保守や線源の補充等が難しくなり閉鎖が相次ぎ、現在では関東以北では東京工業大のみ、東海以西では、静岡大、名古屋大、大阪大、大阪公立大、広島大、九州大の施設を残すのみとなっている。コバルト 60 γ 線照射室の線源の放射能は、2019 年に改正された放射性同位元素等の規制に関する法律の特定放射性同位元素に該当し防護管理対象施設となる場合が多く、本学においてもその対象になっている。この防護管理の内容については、放射性同位元素の規制に関する法律や放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則等に基づいて様々な法律上の要件があり、遡及する形で各施設において施設改修や規程整備等それぞれ対応しているものの、テロ対策等セキュリティにおける防護措置のため、どこにどのような放射性物質がどのように保管されているかという情報はもとより、管理方法等の情報を施設間で共有するような状況にはなっていない。以上の背景を踏まえ、本研修では、本学コバルト 60 γ 線照射室における施設運営、放射線安全管理状況をまとめ上げ、また、他大学コバルト 60 γ 線照射室を視察することによって、他大学における管理方法、法律改正に対する対処方法等の情報交換を行った。視察後、情報交換の結果を元に本学施設の管理や利用者への対応方法等の問題点及び改善点を見出し、東海地区並びに全国の利用者にとってより使いやすく価値のある施設として運用できるようにすることを、本研修の目的とした。